

第三次富士河口湖町観光立町推進基本計画

第1回 観光みらいWG

2026年7月15日

本日の流れ

【10分】 14:00～14:10

1. あいさつ
2. 観光みらいWG開催の趣旨

【10分】 14:10～14:20

3. インプット：「富士河口湖町をとりまく現状」とは

【90分】 14:20～15:50

4. ワーク「VICEの4視点で富士河口湖町の観光課題を整理」

【10分】 14:20～14:30

【全体説明】 ワークの進め方説明（**10分**）

【10分】 14:30～14:40

【アイスブレイク】 自己紹介等（**10分**）

【55分】 14:40～15:35

【ワーク】 グループワーク（**55分**）

【15分】 15:35～15:50

【全体共有】 各チーム代表者による「全体共有」（**15分**）

【10分】 15:50～16:00

5. まとめ

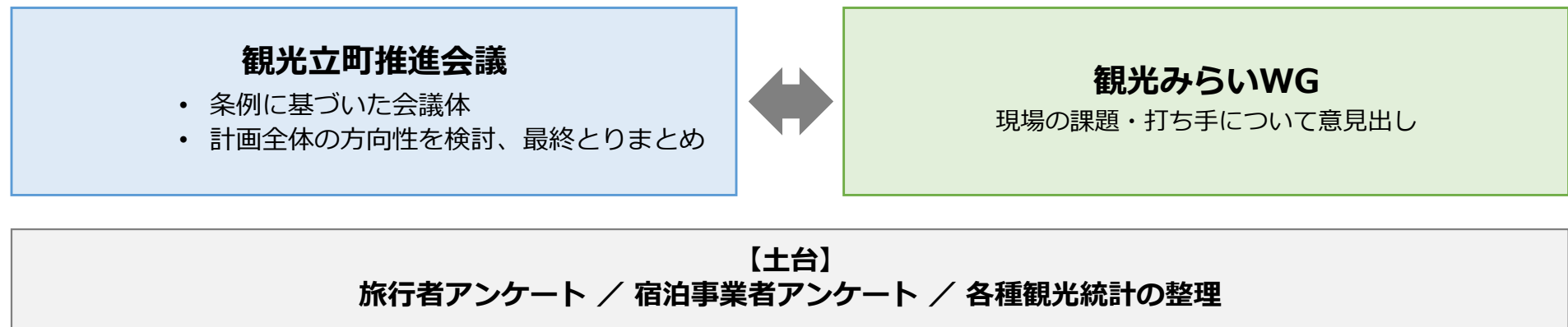
1. あいさつ

※富士河口湖町より

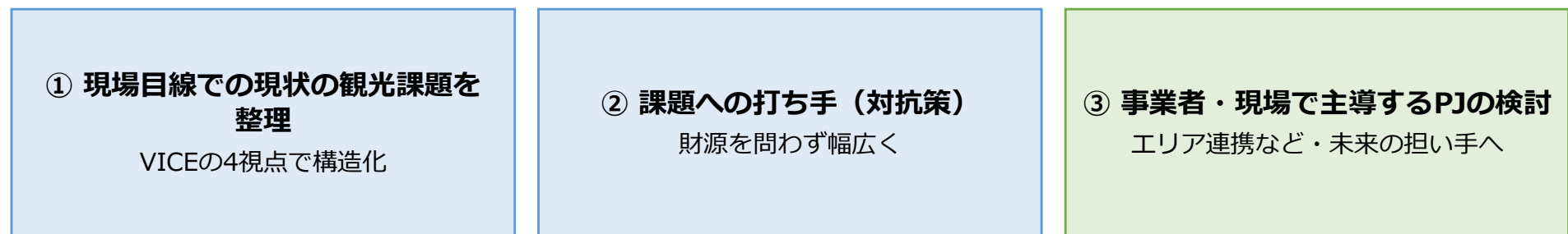
2. 観光みらいWG開催の趣旨

観光みらいWG開催の趣旨

- ・ 宿泊税の導入に伴い、「富士河口湖町第2次観光立町推進基本計画後期計画」を改訂し、「第三次観光立町推進基本計画」を策定予定
- ・ 本WGは、第三次観光計画の検討にあたり、富士河口湖町の観光課題を現場目線で考える「材料出し」の場。施策の方向性を整理する「推進会議」と両輪で計画をつくり上げる

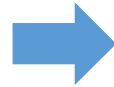


WGで想定するアウトプット



WGの全体スケジュールと2回の役割

第1回WG / 2026年7月15日
【発散】現状の課題と打ち手を出し切る



第2回WG / 2026年10月1日
【収束】施策の方向性+自分たちのPJを具体化

推進会議・計画づくりとの時間軸

時期	推進会議	ワーキンググループ
7/15	第1回（趣旨・現状整理・計画改訂の論点）	第1回WG（課題の洗い出し）
10/1	第2回（WG活動を報告・骨子と施策の方向性）	第2回WG（施策の方向性+自分たちのPJ具体化）
12-1月	第3回（計画案）	—

本日のゴール

- ① 観光みらいWGのメンバーを認識する
- ② VICEの4視点で「課題」を整理する

3. インプット： 「富士河口湖町をとりまく現状」とは

【サマリー】 富士河口湖町をとりまく現状

内部環境の変化

【富士河口湖町を訪れる来訪客の特徴】

- ✓ 2011年以降富士河口湖町を訪れる観光客数は増加傾向。コロナ禍後は特に訪日外国人の旅行者数が急回復・成長している。一方で、日本人の宿泊者数は伸び悩んでいる。
- ✓ 日本人のうち約6割が首都圏からの来訪者。また、8割以上がリピーターで、前回来訪時期も3割が1年未満と、「ヘビーリピーター」に支えられている。
- ✓ 来訪者の6割以上が「富士山を見ること」を来訪目的に上げているほか、「自然・風景鑑賞」や「温泉」なども上位に入ることから、自然環境が主な観光資源となっている。
- ✓ 急増した観光客が河口湖駅前等の一部のエリアに過度に集中することで、オーバーツーリズムが発生している。一方で、河口湖以外の西側のエリアへの周遊や分散は進んでいない。

【行政や観光産業の現状】

- ✓ 「宿泊業・飲食サービス業」は町内で製造業に次ぐ主要産業であり、特に女性の雇用の基盤となっている。
- ✓ 少子高齢化と人口減少が深刻化しており、生産年齢人口が2010年以降減少傾向であり、それに伴って地方税収も減少が見込まれる一方、社会保障関係費は増加している。
- ✓ 令和9年度からの宿泊税の導入により、観光関連施策に対して独自財源の確保と活用が期待される。

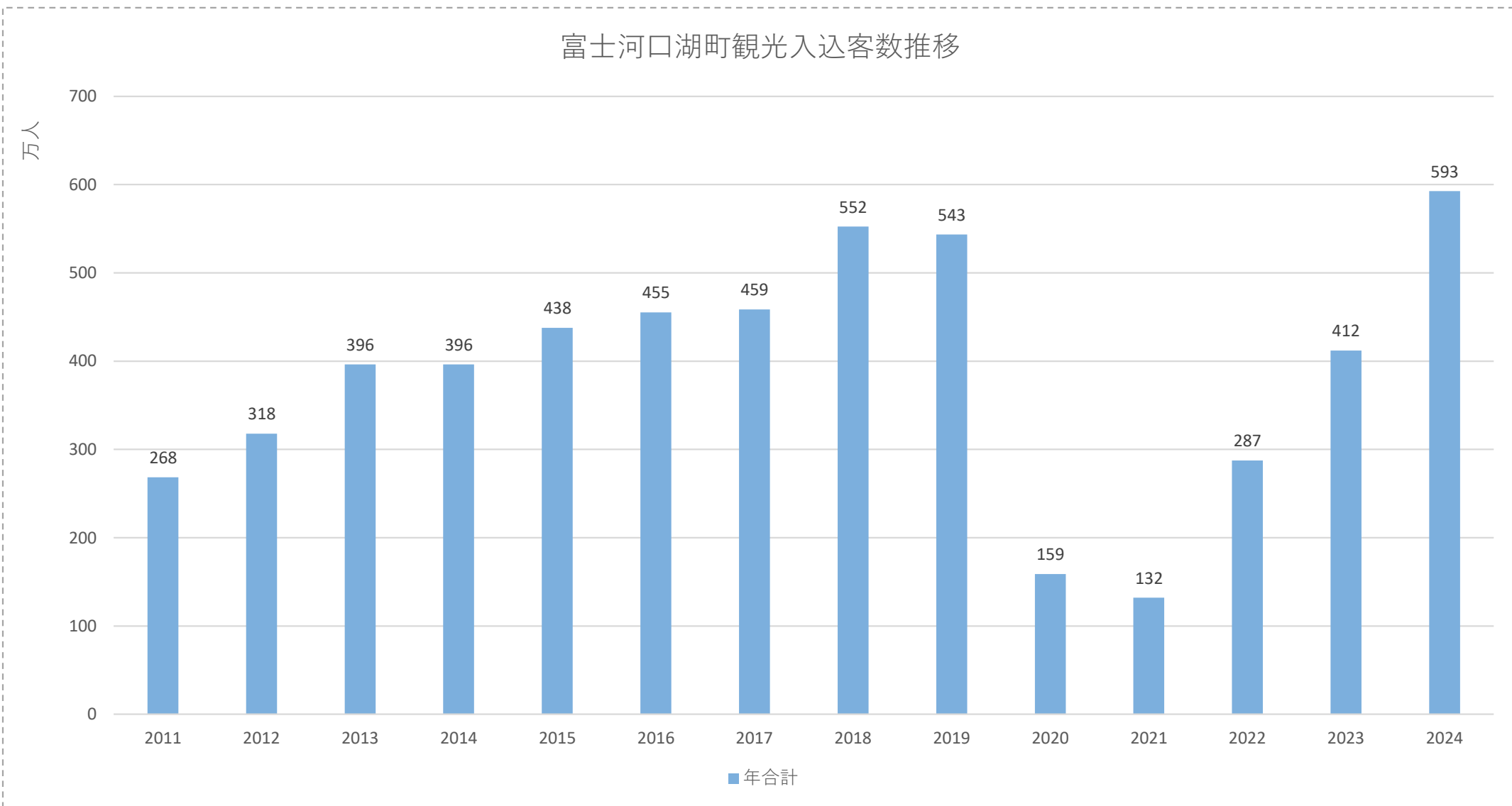
外部環境の変化

- ✓ 日本を訪れる訪日外国人旅行者は年々増加傾向にある他、近年の円安の影響から消費額も増加傾向にある。
- ✓ 世界的には富裕層および高付加価値旅行を好む旅行者が増加しており、自身の体験の満足度向上や地域貢献への関心が高まっている。
- ✓ 観光庁予算や年々増加しており、地方における消費拡大やオーバーツーリズム対策、観光産業の人手不足等の諸課題に関して、国の重点政策が講じられるなど、追い風となっている。

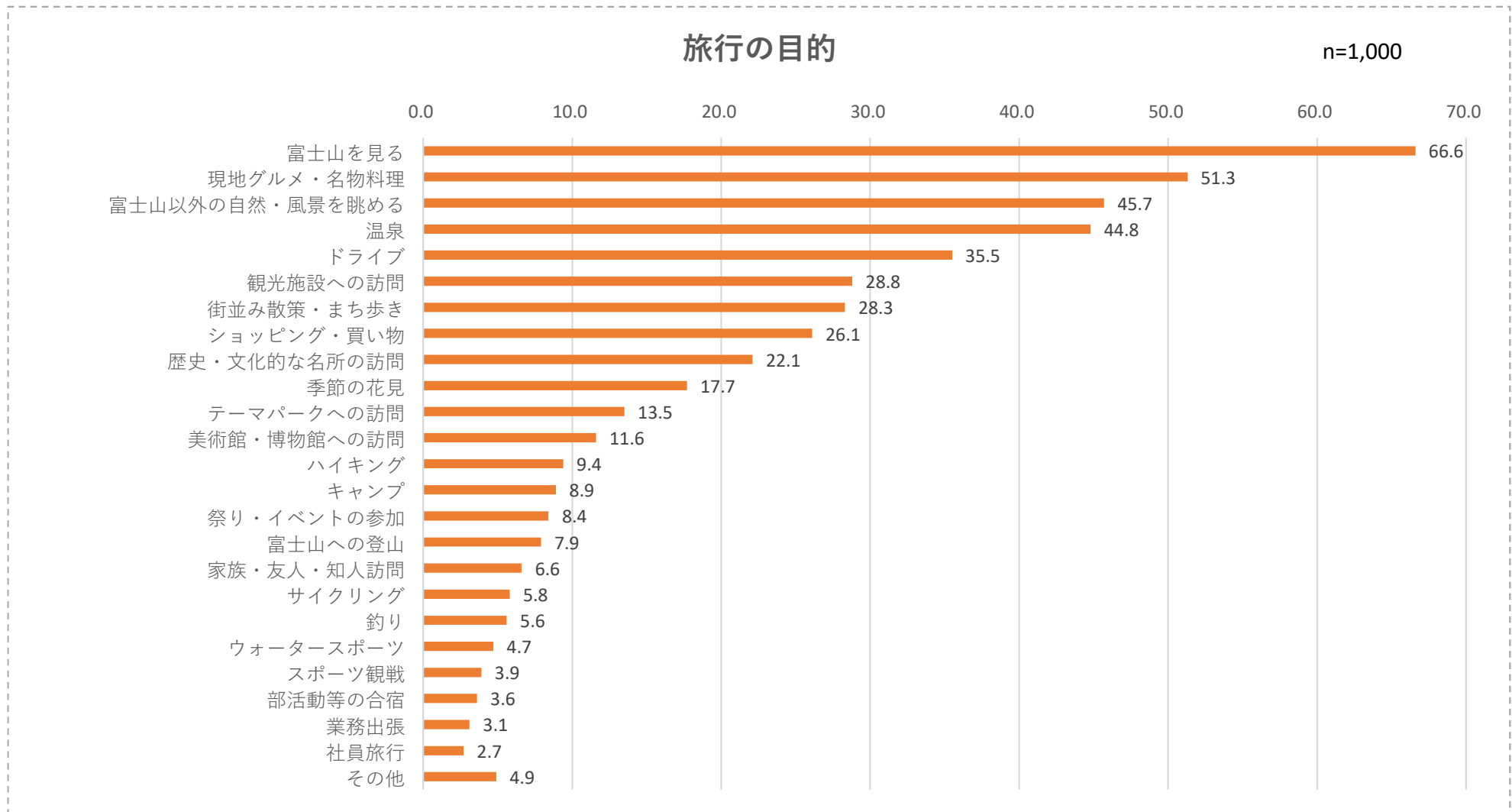
内部環境の変化

富士河口湖町における観光入込客数の推移

- 2011年には270万人だった観光入込客数は、コロナ禍前の2018年、2019年は550万人と約2倍に増加した。
- コロナ禍後は回復傾向にあり、2024年はコロナ禍前の水準を超え、590万人に達している。

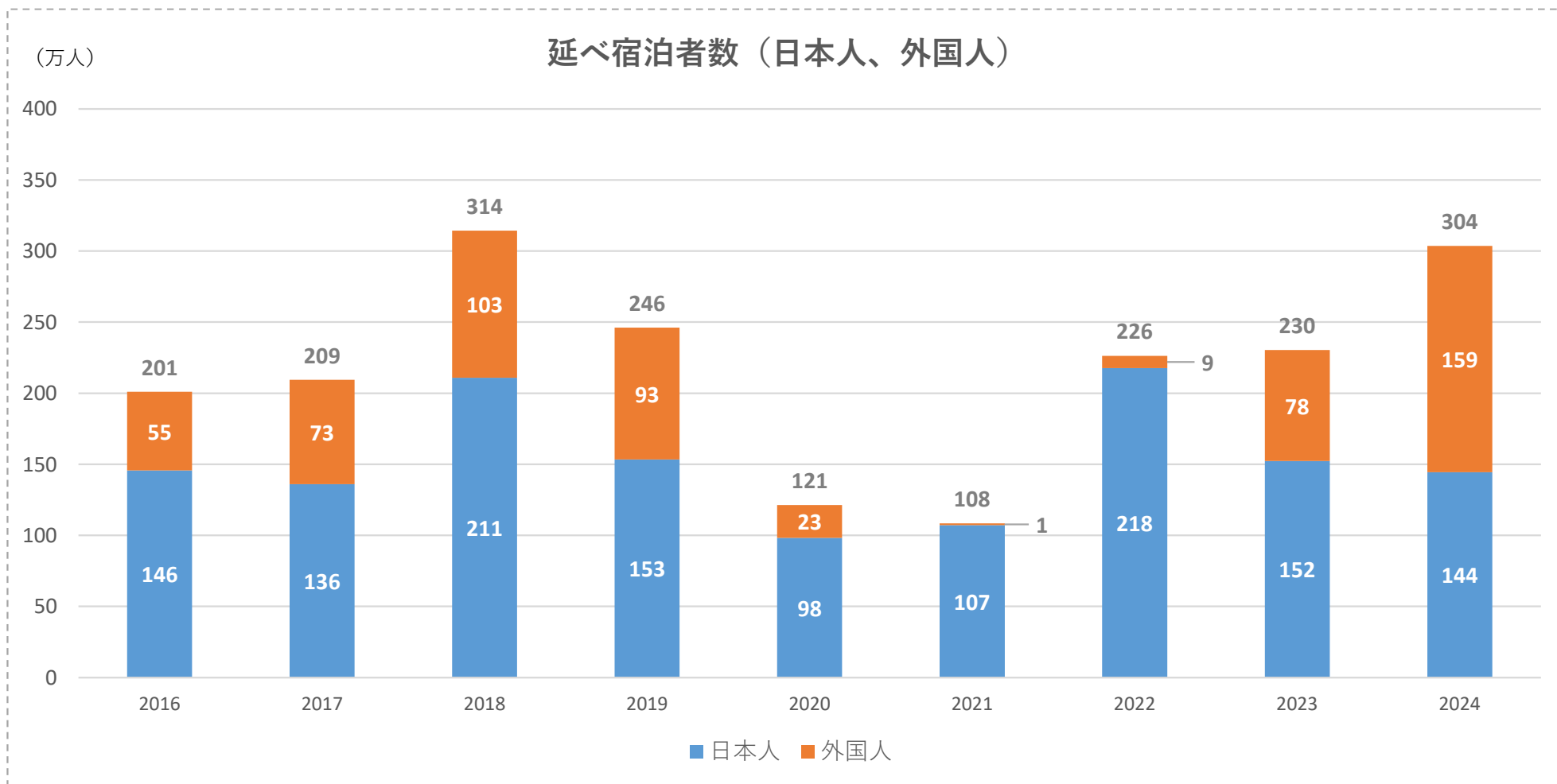


- ・ 富士河口湖町を訪れる旅行者のうち6割以上が「富士山を見ること」を来訪理由として挙げている。
- ・ あわせて「現地グルメ・名物料理」（51.3%）、「自然・風景鑑賞」（45.7%）、「温泉」（44.8%）への関心も高く、富士山を中心とした自然・食・癒やしが上位に上がる。



富士河口湖町における宿泊者数の推移

- 2018年には年間約300万人であった宿泊者数は、コロナ禍の2021年には3分の1（約100万人）まで落ち込んだ。その後はインバウンドを中心に回復を見せ、2024年には全体で約300万人とコロナ禍前と同水準まで回復した。
- インバウンドは順調な回復を見せたが、日本人宿泊者数の回復は依然として課題である。



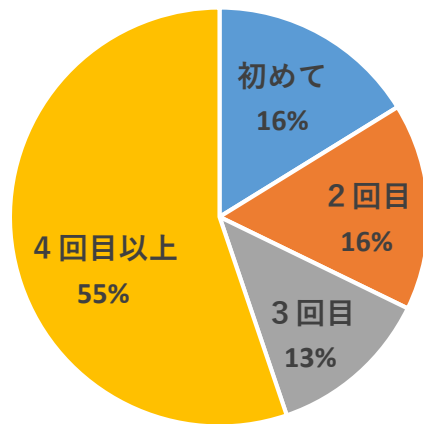
出典：観光庁 宿泊旅行統計調査より町作成

日本人観光客の属性・旅行形態

- 富士河口湖町への来訪者のうち、8割以上がリピーター。さらにリピーターのうち、約3割は1年未満に再訪している。
- 旅行者の居住都道府県は東京都が最も多く約3割、首都圏（一都三県）を合わせると約6割となる。

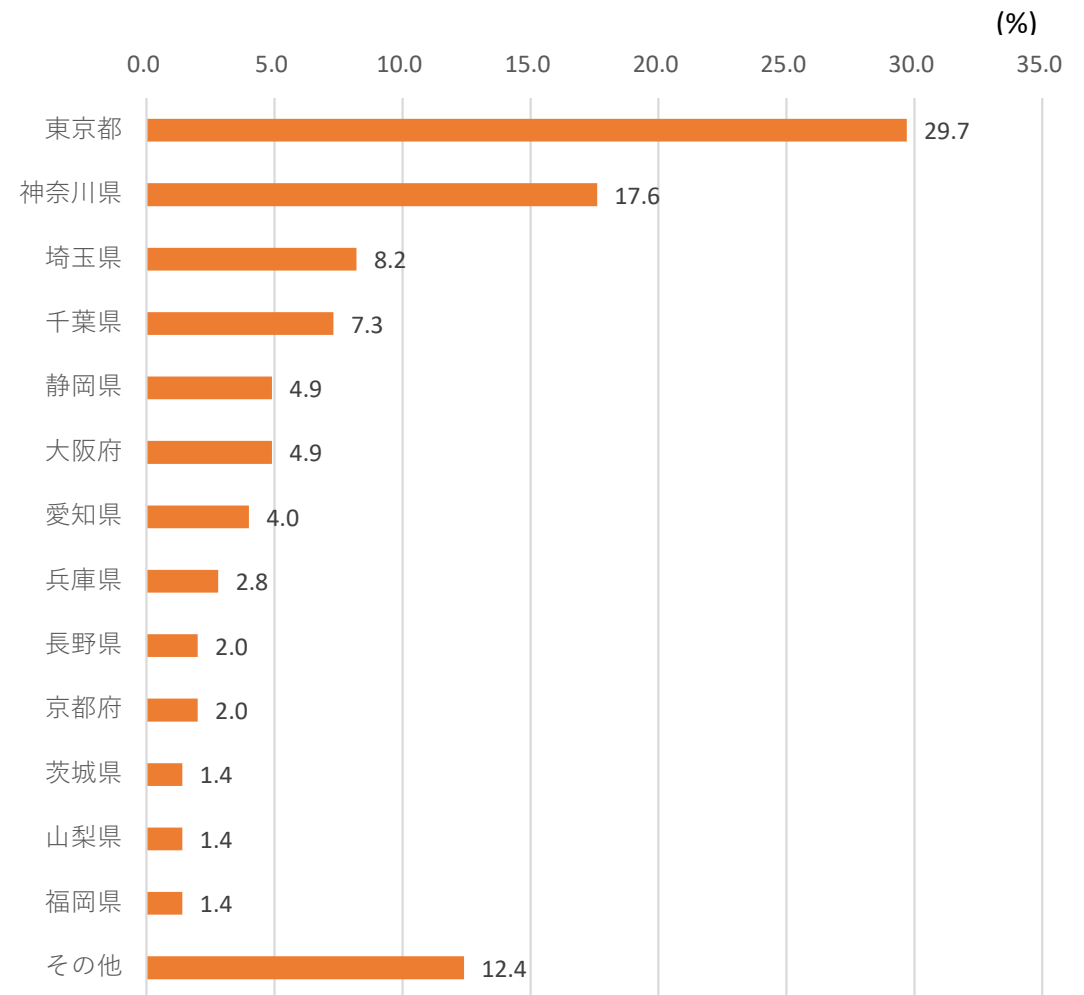
来訪回数

n=1,000



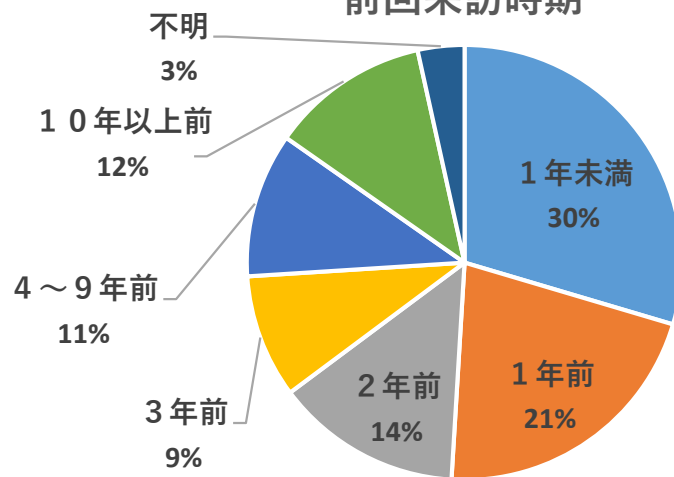
居住都道府県

n=1,000



前回来訪時期

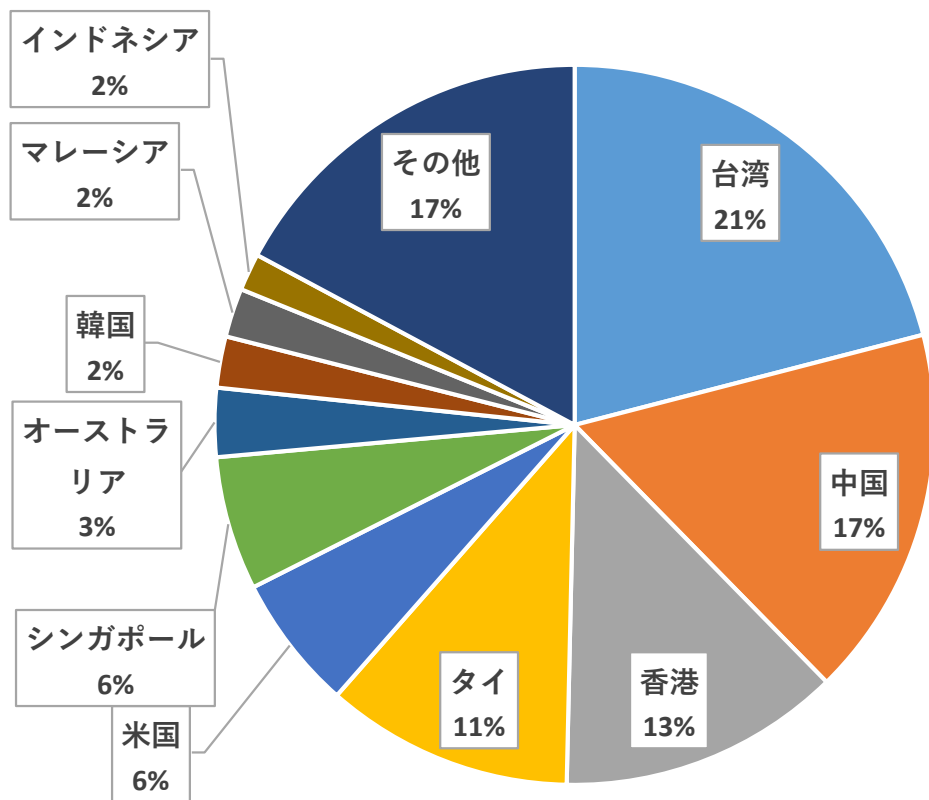
n=838



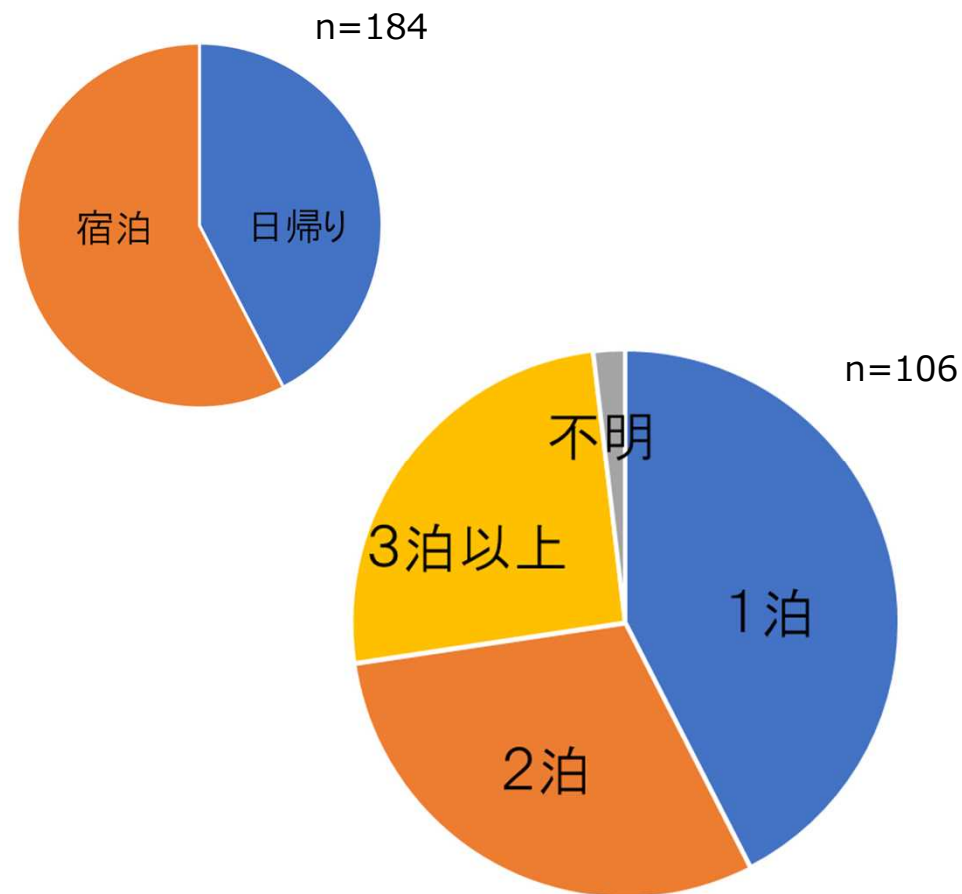
外国人宿泊者数の現状

- 2024年の外国人宿泊者の国籍別割合は、台湾（21%）、中国（17%）、香港（13%）、タイ（11%）、米国（6%）、シンガポール（6%）の順に多い。
- 外国人旅行者のうち約6割が宿泊をしており、そのうち2泊以上が5割を超える。

国籍別延べ宿泊者数割合

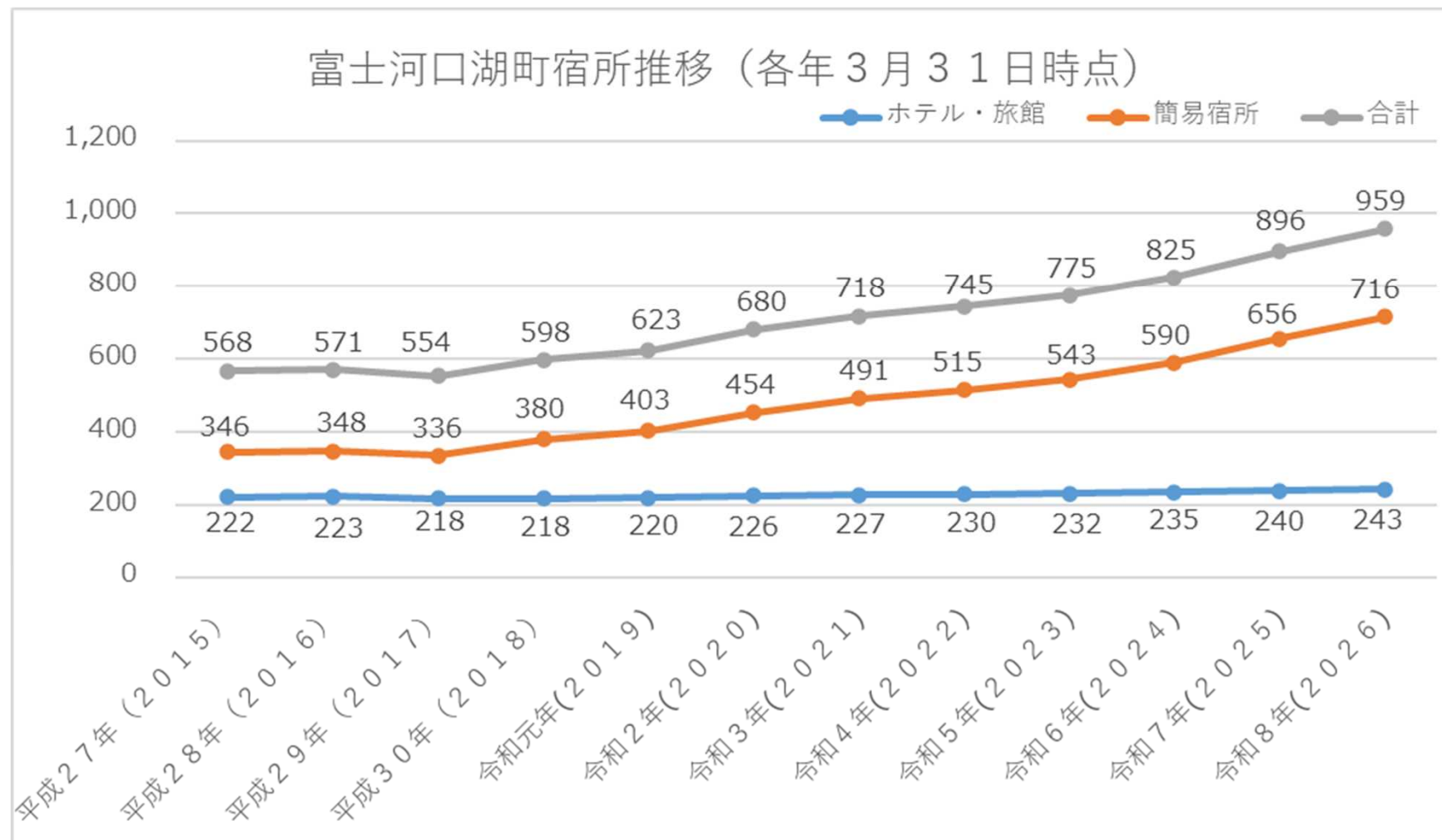


外国人旅行者の滞在期間



種別ごと宿泊施設数の推移

- 近年の宿泊施設種別ごとの施設数の推移を見ると、ホテル・旅館は横ばいであるが、簡易宿所が2015年から倍以上増加している。



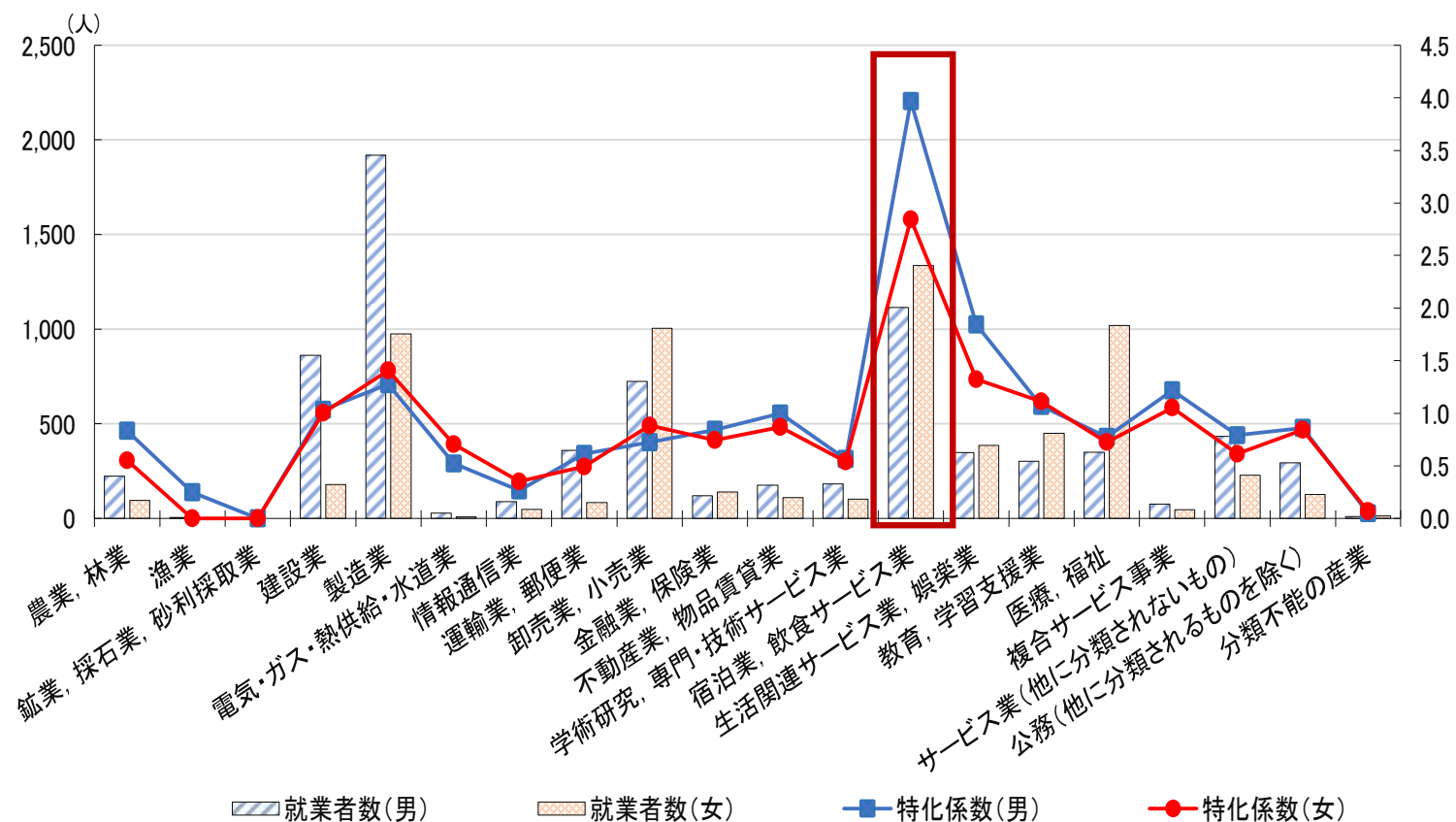
※ホテル・・・10室以上の洋式客室を主体とする宿泊施設。

※旅館・・・5部屋以上の和式客室を主体とする宿泊施設。

※簡易宿所・・・客室を多人数で共用する宿泊施設。カプセルホテルや民宿、ペンション、キャンプ場のバンガローなどが該当。

出典：山梨県公表データより

- 産業別就業者数では、「宿泊業・飲食サービス業」が製造業に次いで2番目に多い。
- 特に女性の就業者数は全産業の中で最も多い。

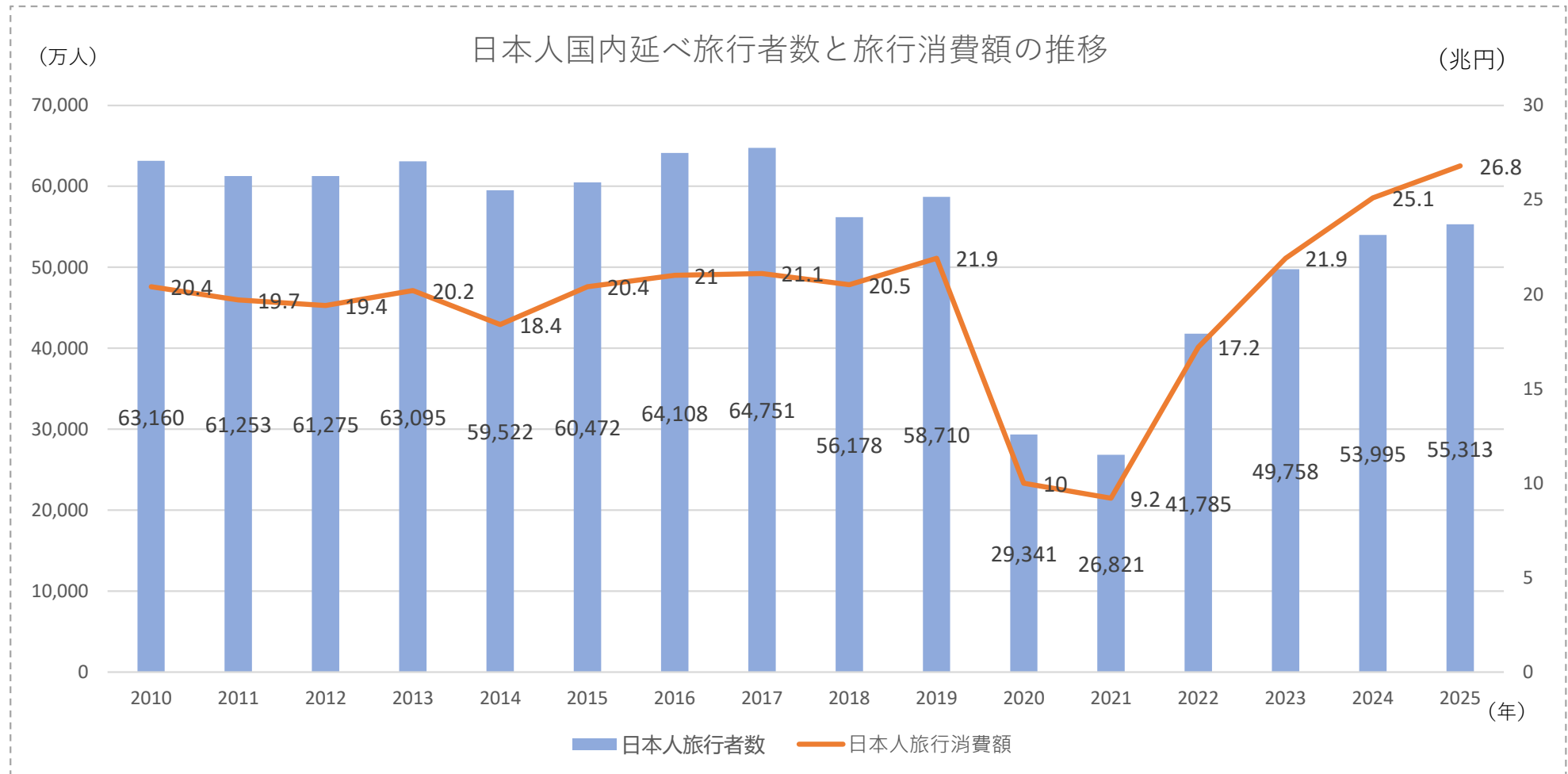


出典：令和2（2020）年国勢調査

(2) - 2 外部環境の変化

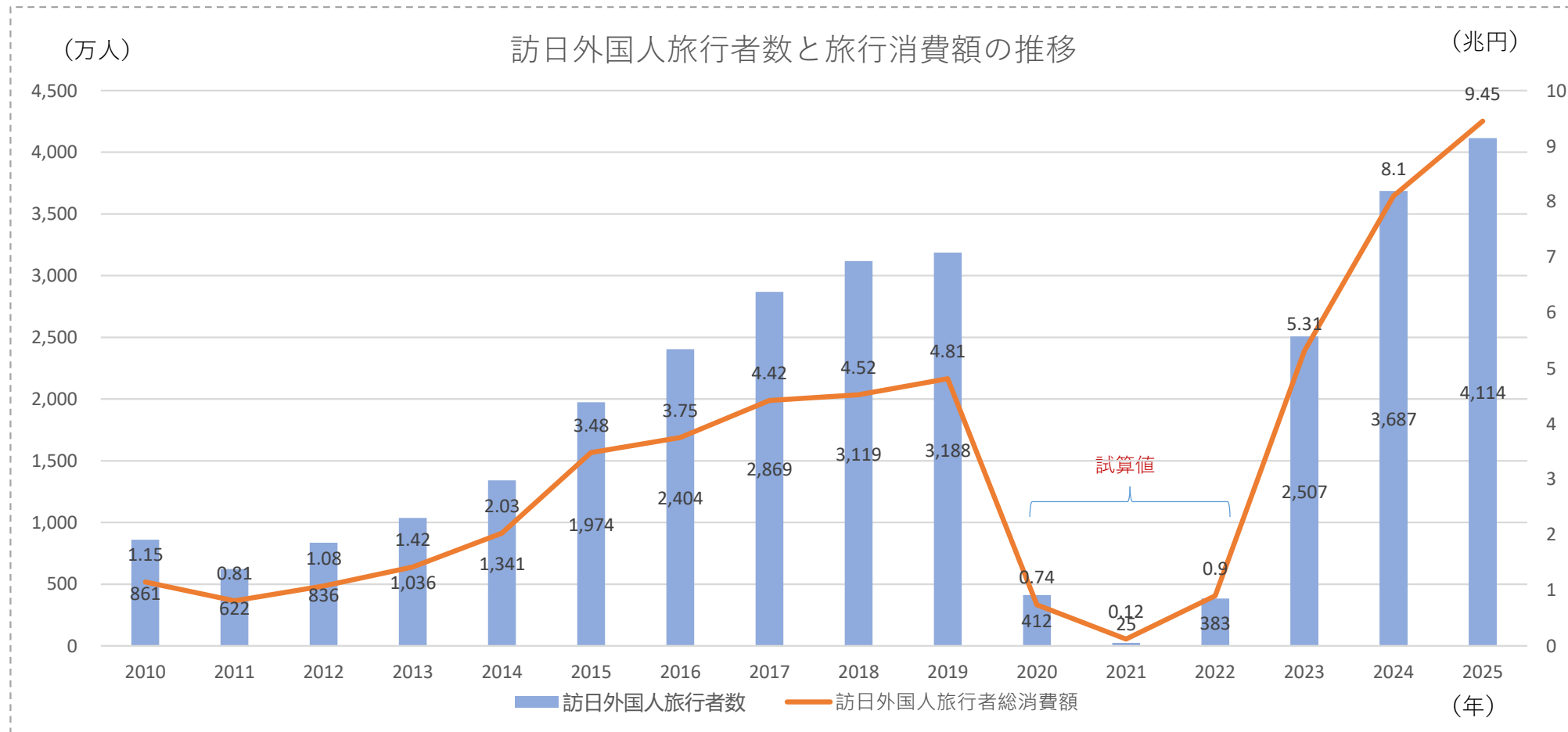
国内旅行者数と消費額の推移

- ・日本人国内延べ旅行者数は近年は横ばいから減少傾向。コロナ禍を経て2022年以降は回復傾向にはあるが、コロナ禍前の水準には至っていない。
- ・一方、日本人国内旅行消費額はコロナ禍前の水準を超え、2025年には26.8兆円まで成長している。



訪日外国人旅行者数と消費額の推移

- ・ 訪日外国人観光客数は2011年以降急増しており、2019年には約3,200万人に到達していた。
- ・ コロナ禍後も急回復を見せ、2025年には約4,100万人（2019年比1.3倍）が来訪した。
- ・ また、円安の影響等を受け、旅行消費額は2025年には9.5兆円（2019年比約2.0倍）に到達している。



出典：「観光白書」（国土交通省）、「インバウンド消費動向調査」（観光庁）、訪日外客統計（日本政府観光局（JNTO））資料を元に作成

注1：2017年までは空港を利用する旅客を中心に調査を行っていたが、短期滞在の傾向があるクルーズ客の急増を踏まえ、2018年からクルーズ客を対象とした調査も行い、調査結果に反映したため、2018年以降と2017年以前の数値との比較には留意が必要。

注2：新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年においては4～6月期、7～9月期、10～12月期の調査を中止し、1～3月期の調査結果を用いて、2020年年間値を試算した。また2021年については、1～3月期、4～6月期、7～9月期の調査を中止し、10～12月期の調査結果等を用いて、2021年年間値を試算した。そのため、2019年以前の数値との比較には留意が必要。

注3：新型コロナウイルス感染症の影響により、2022年は1～3月期、4～6月期、7～9月期を試算値として公表。そのため、年間の値についても試算値であることに留意が必要。

2030年までに予定されている観光関連政策等の動向

2026(令和8)年	第5次観光立国推進基本計画 (「観光の持続的な発展」、「消費額拡大」、「地方誘客促進」、「観光と交通・まちづくりとの連携強化」、「新技術の活用・本格展開」) 出国税引上げ／免税制度改正／パスポート発給手数料値下げ／
2027(令和9)年	労基法改正／技能実習廃止・育成就労制度移行／ふるさと住民登録制度創設(予定)／ワールド・マスタース・ゲームズ開催／持続可能でレジリエント(強靱)な観光の国際年
2028(令和10)年	化石燃料賦課金(カーボンプライシング)導入／日本版ESTA「JESTA」の導入
2029(令和11)年	成田空港年間発着枠拡大(※延期見通し)／
2030(令和12)年	SDGs(持続可能な開発目標)の最終年／関空年間発着枠「年間30万回」の実現目標(2030年代前半)／IR開業

- ・ 日本政府は、コロナ禍を経て持続可能な観光立国の復活を目指し、「観光立国推進基本計画（第5次）」を策定。
- ・ オーバーツーリズム対策や、地方誘客、人材不足への対応等が明記された。

観光立国推進基本計画（第5次）（概要）



課題・方向性

- 観光は、**訪日外国人旅行消費額は9.5兆円**（2025年速報）、そしてその**経済波及効果は約19兆円**に及ぶなど、**地域経済や日本経済の発展をリードする戦略産業**※である。また、**国際相互理解の促進**など、**多面的に重要な意義**を有する。
※訪日外国人旅行消費額15兆円を達成した場合、経済波及効果は約30兆円規模と、幅広い産業に裨益することが見込まれる。
- 他方、観光を巡り顕在化している課題として、**混雑・マナー違反等の個別課題への対応**、**特定の都市・地域への集中**など、**オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けた対策の強化が不可欠**。加えて、深刻な**人材不足への対応**、観光の**高付加価値化**、**国内交流の拡大**、災害や国際情勢等の**様々なリスクに対する強靱性の確保**などの課題への対応が不可欠。
- そのため、「**観光の持続的な発展**」、「**消費額拡大**」、「**地方誘客促進**」、「**観光と交通・まちづくりとの連携強化**」、「**新技術の活用・本格展開**」を施策の方向性として位置づけ、**地域住民と観光客双方の満足度を向上させ**、**交流人口・関係人口を拡大**するとともに、「**住んでよし**」「**訪れてよし**」に加え、「**働いてよし**」の**観光産業の実現**を推進するための施策を強力に推進。

施策の柱

インバウンドの戦略的な誘客と 住民生活の質の確保との両立

- ・ 局所的・地域的に生じている**混雑・マナー違反等の個別課題への対応**（民泊関係含む）
- ・ **地方誘客**を進めるための広域的な体制の整備
- ・ 地方誘客及び消費拡大に効果の高い**観光コンテンツの充実**
- ・ **地方部への交通ネットワークの機能強化**

計画期間：

令和8～12年度
（2026～2030年度）

国内交流・アウトバウンド拡大

- ・ 休暇の分散・**旅行需要の平準化**
- ・ **関係人口の創出**や**二地域居住**の促進
- ・ **国内・海外旅行の需要喚起**に向けた機運醸成
- ・ **観光復興に向けた再生支援**

観光地・観光産業の強靱化

- ・ 持続可能性を高めるための**インバウンド市場・観光コンテンツの多様化**
- ・ 観光DX、省力化投資等による**生産性向上**
- ・ 健全な競争環境の整備
- ・ ユニバーサルツーリズムなど**多様なニーズへの対応**

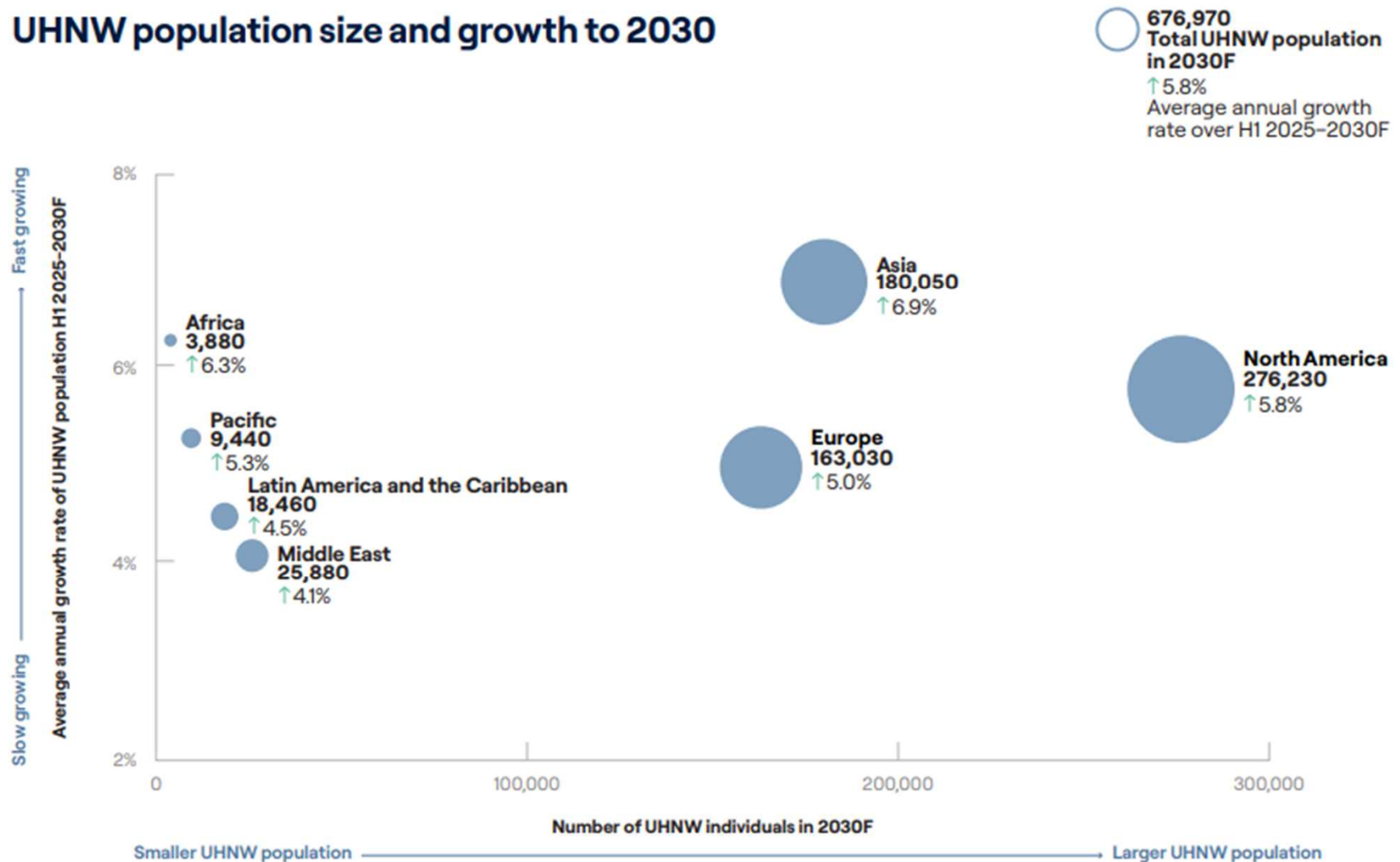
目指すべき
2030年の姿

戦略産業として、日本の魅力・活力を次世代にも持続的に継承・発展させていく観光

世界的な潮流：富裕層人口の増加

- 2030年までに世界の超富裕層（純資産3,000万ドル以上）人口は67万6970人に達し、2025年上半期から31%増加、16万6160人増加する見込み。
- アジアは超富裕層の人口において最も高い伸び率を記録する見込み。

UHNW population size and growth to 2030

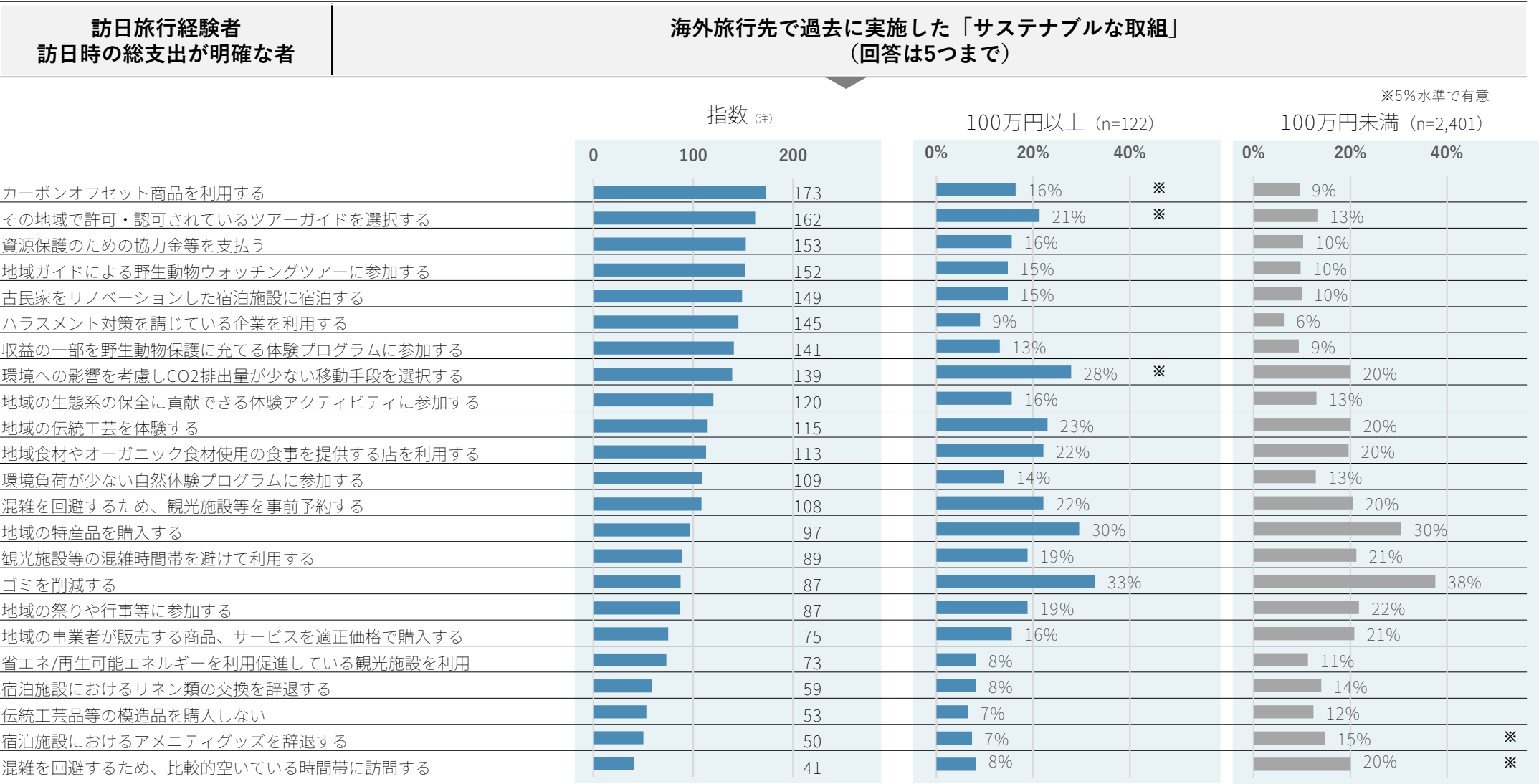


出典：「World Ultra Wealth Report 2025」 Altrata

https://info.altrata.com/l/311771/2025-09-26/27cmbq/311771/17589096956AYjzV5Z/Altrata_World_Ultra_Wealth_Report_2025_FINAL.pdf

高付加価値旅行者は地域への貢献も配慮

- 高付加価値旅行者層は自身の体験の満足度向上と地域への貢献を両立できる有料の選択肢を選好する傾向

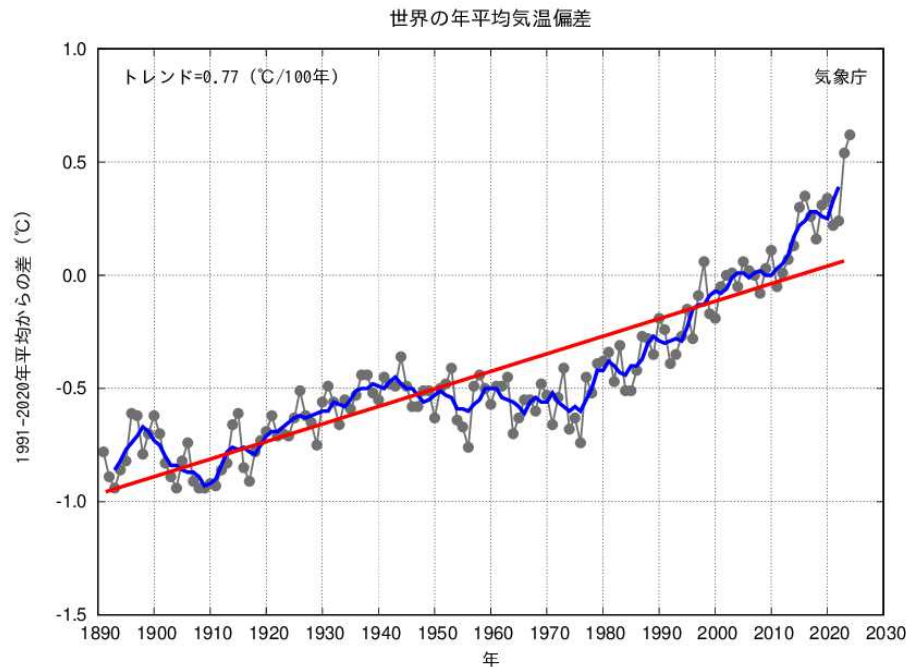


注：指数は「100万円以上の層の選択率÷100万円未満の層の選択率×100」で、100超は「100万円以上」の層が優位と解釈する。

世界的な潮流：温暖化との関係性

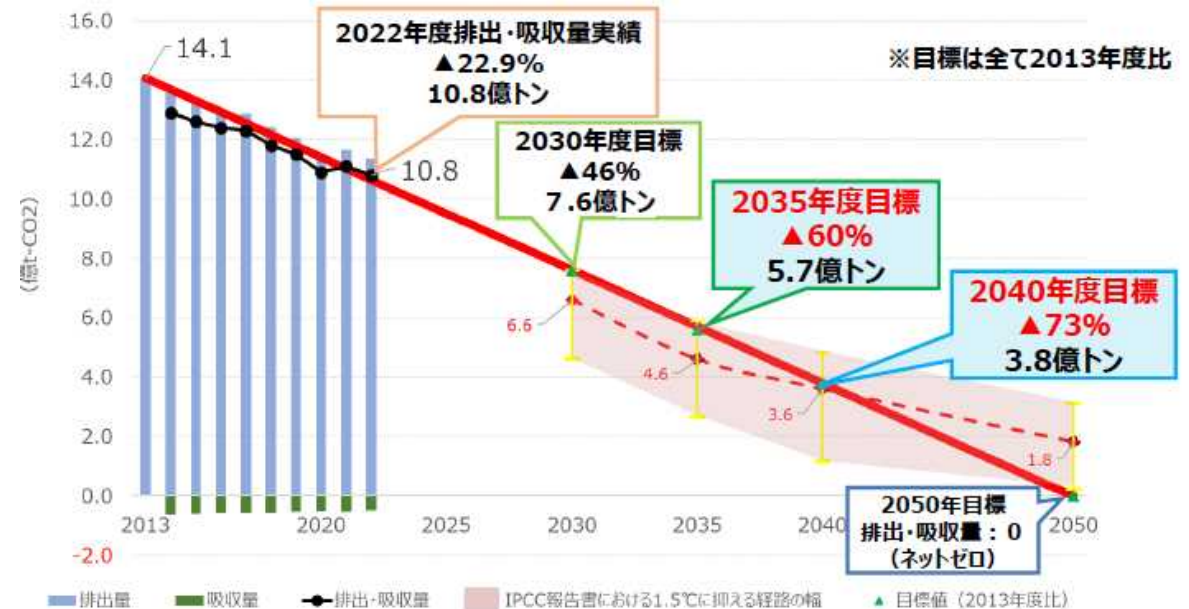
- 地球温暖化により世界の平均気温は年々上昇。今後も挙がり続けることが予想されており食や景観への影響が懸念。
- 特に夏季の高温による観光行動の変化への対応が必要となる。

世界の年平均気温偏差の経年変化



引用：気象庁公式webサイト「世界の年平均気温」
https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/an_wld.html

日本が掲げるCO2の削減目標

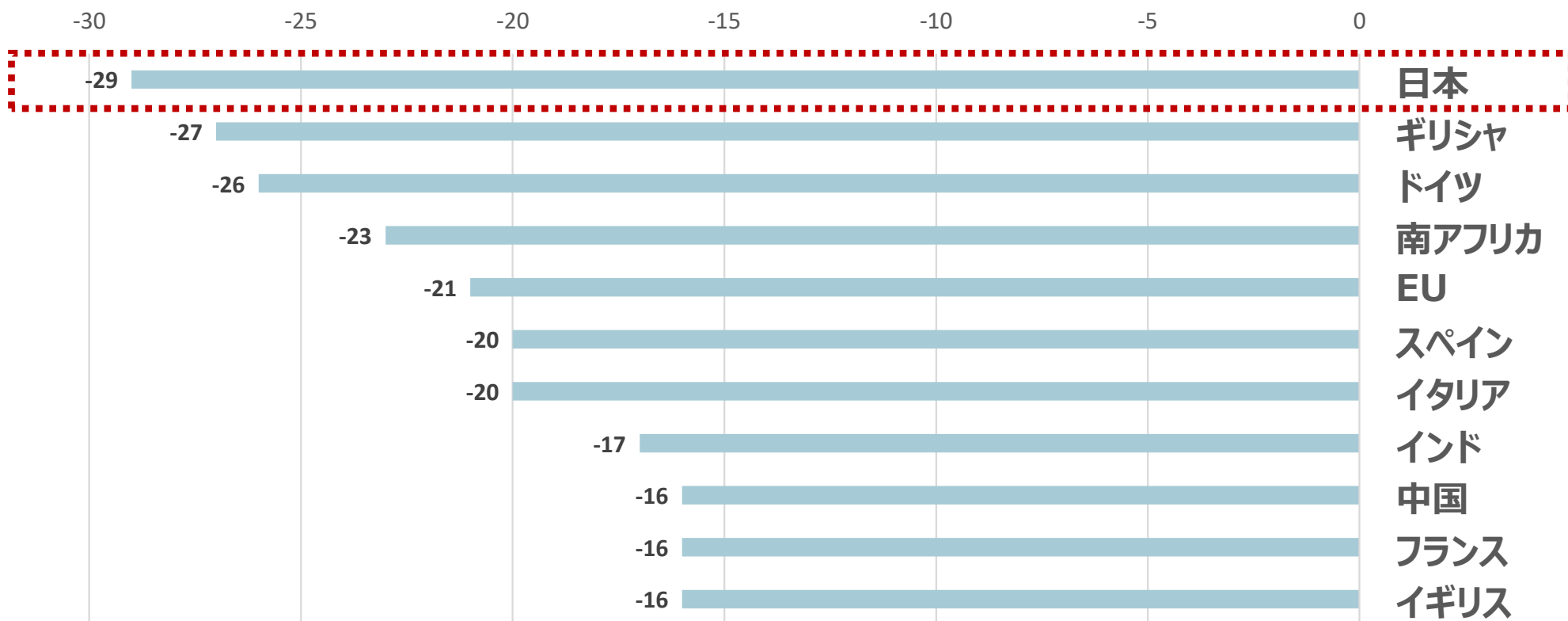


引用：「地球温暖化対策計画の概要」(内閣官房・環境省・経済産業省, 令和7年)
<https://www.env.go.jp/content/000291668.pdf>

観光産業の人手不足は10年後も継続予想

- 今後10年間の新規雇用は9100万人創出され、世界で生まれる新しい仕事の3件に1件を占めると予測
- 一方で、2035年には4300万人を超える労働力不足が見込まれており、必要とされる人材の16%が確保できない状況に陥る可能性
- 日本はもっとも深刻で、2035年の需要に対して労働力供給が29%不足すると予測されている。

2035年の需要水準に対する労働力供給



観光振興の視点：VICEモデル

- 観光のマネジメント理論のVICEモデルでは、**Visitor(来訪者)**、**Industry(産業)**、**Community(地域社会)**、**Environment(環境)**の4つの要素・関係者間のニーズを満たしながら、それぞれの相互作用を適切なバランスで保つことが重要とされている。

視点	視点の例
Visitor (観光客)	- 観光客に対する魅力ある体験を創出し、ブラッシュアップする - 受入環境を整え、来訪者にとっての快適性、利便性、安心感を高める - 来訪者の属性や行動、意識などをデータを元に的確に把握し、それに応じた体験を提供。満足度や再来訪意向を高める
Industry (事業者)	- 提供されるサービスの多様化、高付加価値化を実現し、観光産業としての持続性を高める - サービスの基本となる働き手を確保し、長期的視点を持って育成し定着を図る - 現場にAIをはじめとする技術導入を図り、効率性と生産性を向上
Community (地域住民)	- 観光客増加に伴う生活への悪影響（オーバーツーリズム）を軽減することで、地域住民の観光に対する理解と受容力を向上させる - 観光客だけでなく、地域住民も利用できる社会インフラ（交通など）を整備する
Environment & Culture (環境及び文化)	観光客にとっての魅力の源泉であり、地域のアイデンティティの核ともなる地域資源（自然、景観、文化、歴史）を保全し、次世代に引き継いでいく

VICEモデル



出典：A Practical Guide to Tourism Destination Management (UNWTO, 2007)

4. ワーク

「富士河口湖町の観光課題を整理する」

本日のワーク内容

概要説明

ワークの進め方説明 **(10分)**

アイスブレイク

自己紹介等 **(10分)**

ワーク

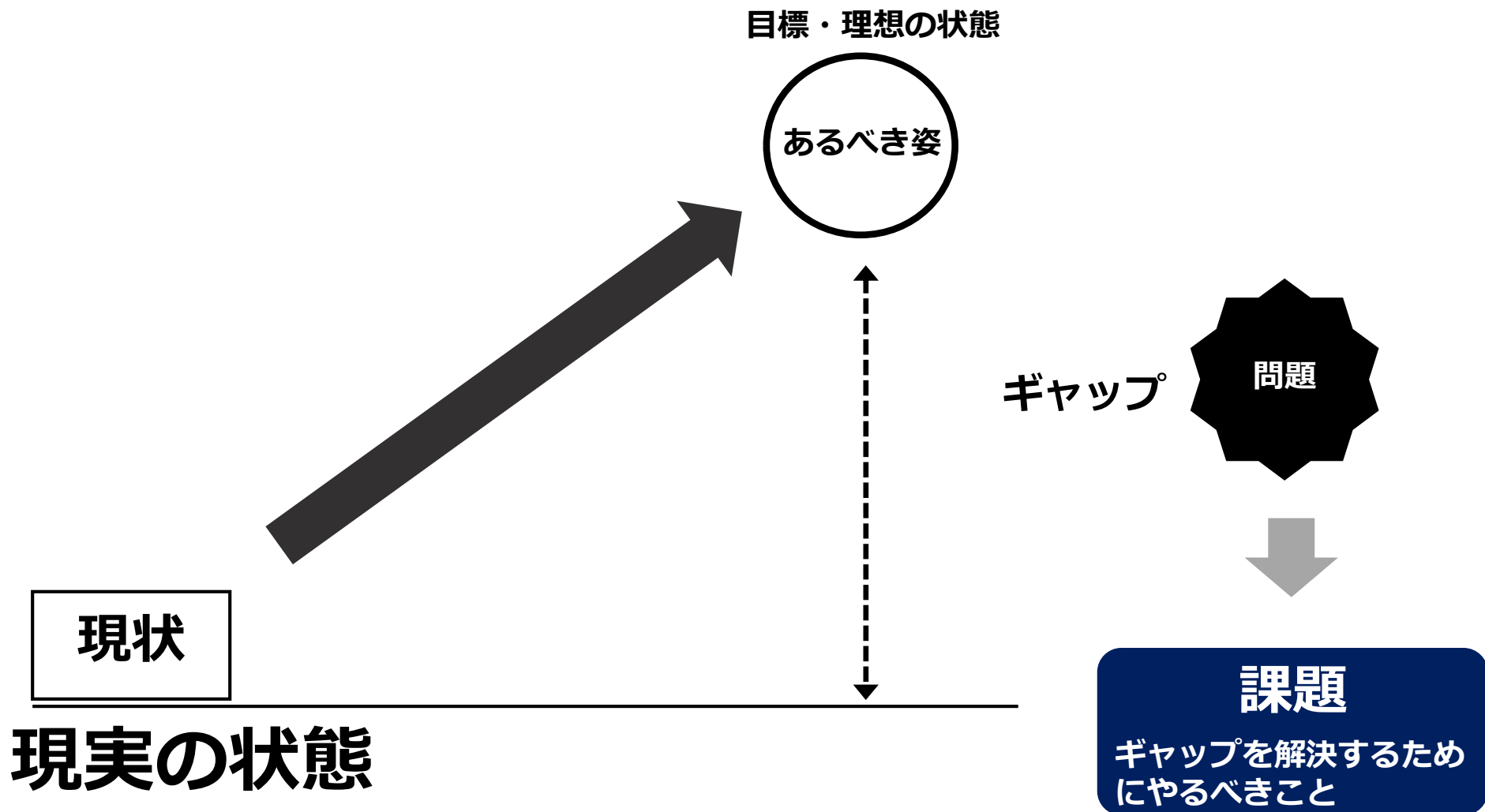
グループワーク **(55分)**

全体共有

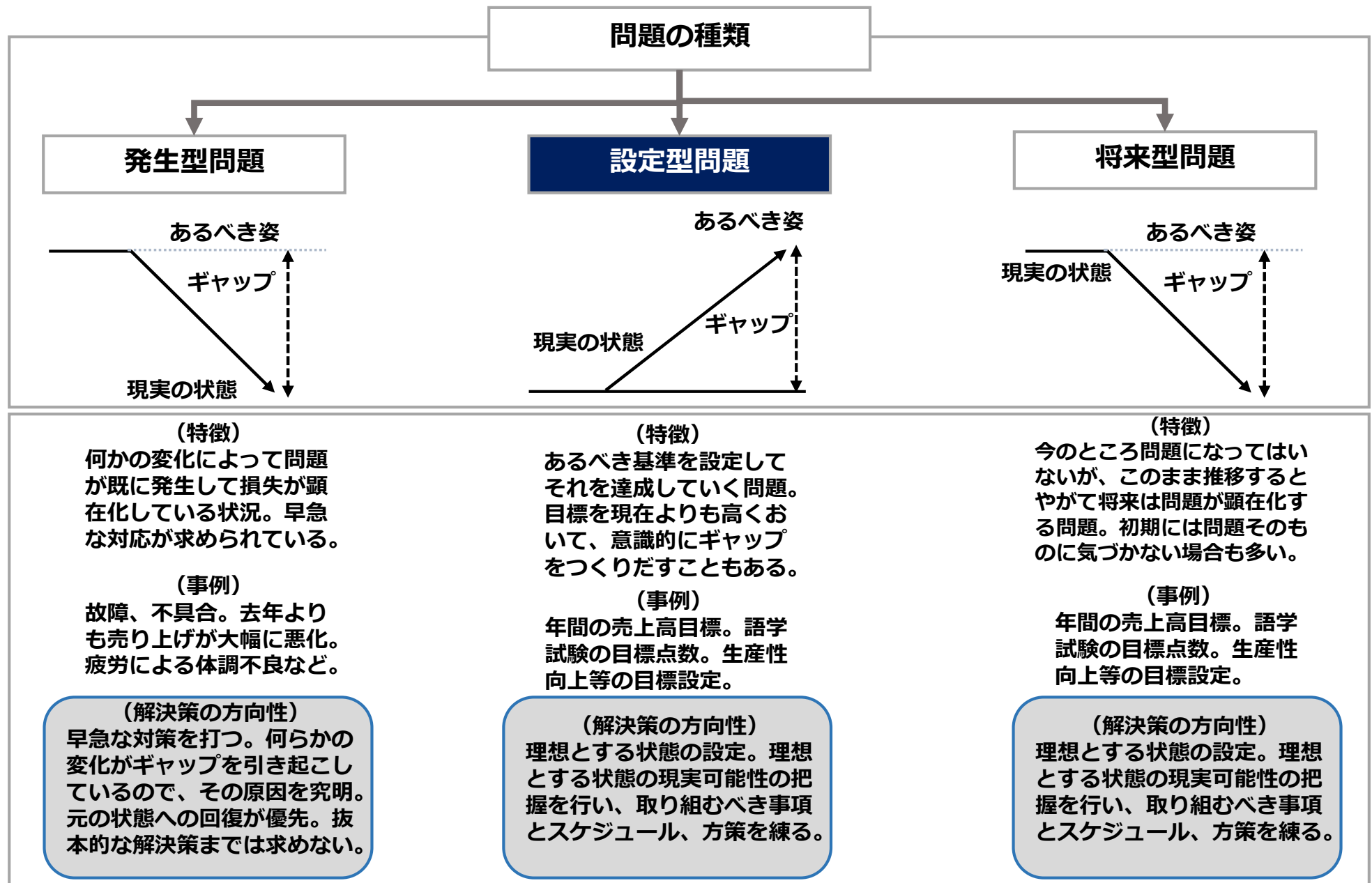
各チーム代表者による「全体共有」 **(15分)**

「問題」と「課題」とは

- 問題とは、「目標（あるべき姿）と現状(今ある姿)とのギャップ」
- 課題とは、ギャップを解消するためにやるべきこと



参考：問題の種類



ワーク内容

VICEモデルのフレームワークをもとに、以下のような形式で議論を進める

* 「V」「I」「C」「E」それぞれについてシートを用意

来訪者（V）に関する課題と取組の方向性

（目標設定）
いつまでに
どうなりたいのか

来訪者（V）について、10年後はどのような状態（目標）を設定するか？

（現状認識）
あるべき理想の姿と
現実のギャップ

目標に比べてどの程度のギャップ（問題）があるでしょうか？

（課題設定）
ギャップを埋めるた
めに実行すべきこと
は何か

問題（ギャップ）があるとすれば、そのギャップを埋めて目標を達成するには、何に取り組めばよいでしょうか？

ワークの進め方・考え方

ワークの進め方

- 0～10分 : **各自**でふせんに書き出す (V・I・C・Eそれぞれ)
10～50分 : **グループワーク**。各自で考えた内容をもとに、模造紙にふせんを貼りながら議論
50～55分 : 発表準備に向けたグループ内でのまとめ。 **発表者 1 名程度決定** (事務局以外の方)

- ✓ 模造紙は「V」「I」「C」「E」それぞれ用意しています。必ずしも、すべての模造紙を埋める必要はありませんので、意見の多かったカテゴリから討論し、模造紙を埋めていくことをお勧めします
 - グループワークの最初に、各自の意見出しでどのカテゴリが多かったかを最初に確認したうえで進めましょう

ワークの考え方

- 必ずしも「目標」⇒「現状」⇒「課題」の順番で考えなくとも、考えやすい順番で記載いただいて問題ありません。(例:「町内の各エリアの周遊促進」という課題から考えることも可)
- 「目標:みんなが幸せになる観光地」といった広いトピックではなく、**皆様が普段から感じられている事柄や課題感等をふまえた、個別・具体のトピック**で極力ご検討ください。
- **自分たちでできることや行政と連携して実施するもの**など、内容は幅広く検討ください。

ワークのルール

- ✓ ワーク内容に正解はありません。**他者の意見は否定せず**、各自の考えに耳を傾けましょう
- ✓ ワークの時間が限られているため、自身の**説明は極力簡潔に**お願いします
- ✓ ふせんへは、「**キーワード**」を記載 (文章にしない)。また、**太字で大きな字**を書くようにし、書ききれなかったことは口頭で補足ください

検討の例

来訪者（V）に関する課題と取組の方向性

（目標設定）
いつまでに
どうなりたい
のか

来訪者（V）について、10年後はどのような
状態（目標）を設定するか？

複数エリアを
巡って楽しめる

（現状認識）
あるべき理想
の姿と現実の
ギャップ

目標に比べてどの程度のギャップ（問題）が
あるでしょうか？

特定エリアに
集中

（課題設定）
ギャップを埋
めるために実
行すべきこと
は何か

問題（ギャップ）があるとすれば、その
ギャップを埋めて目標を達成するには、何に
取り組めばよいでしょうか？

エリア間連携
事業者連携
（相互送客）

地域社会（C）に関する課題と取組の方向性

（目標設定）
いつまでに
どうなりたい
のか

地域社会（C）について、10年後はどのような
状態（目標）を設定するか？

住民生活への
影響を軽減

（現状認識）
あるべき理想
の姿と現実の
ギャップ

目標に比べてどの程度のギャップ（問題）が
あるでしょうか？

私有地立入
騒音

（課題設定）
ギャップを埋
めるために実
行すべきこと
は何か

問題（ギャップ）があるとすれば、その
ギャップを埋めて目標を達成するには、何に
取り組めばよいでしょうか？

来訪者向けの
マナー・ルール
設定

説明はここまで！ まずはアイスブレイク



- 各自1分程度で、簡単に自己紹介
- ✓ お名前
 - ✓ ご所属
 - ✓ 普段の活動（仕事内容・その他）
やご関心

自己紹介を全体で**10分程度**実施した後、
各グループでワークに進んでください！

【全体共有】各チーム代表者による「全体共有」（20分）

ワークでディスカッションした新たな「気づき」を中心に、
各チーム代表者1名が発表しましょう。

5. まとめ・総括

※富士河口湖町より

宿題予告イメージ

1. 「気づき」の言語化

今回のワークショップで他チームの発表やインプットパートを通して得た、
最も大きな気づきを教えてください。

2. 「課題」から考える、自分なりの「施策（打ち手）のアイデア」

自グループの議論や他グループの発表から、特に自身が着目した「課題」に対する打ち手として考えられるものをご記載ください。（アイデアベースで構いません）。できれば複数個考えていただき、そのうち、「自分たち（自分＋他参加者や地域内事業者・行政・団体）と連携することで実施可能なこと」について、1つ以上記載ください。

※提出フォーマットを用意し、WG後、1か月以内を目途に提出いただくことを予定しています